



序章

生物多様性ってなに？

1 生物多様性とは？

地球上には、現在確認されているだけで約175万種の生物がすんでおり、まだ発見されていないものも含めると、3,000万種にもなるといわれています。これらの多くの生物が豊かな個性を持ち、さまざまなつながりを持つことを「生物多様性」といいます。

食物連鎖と生態系

生きものが、食べたり食べられたりする関係を「食物連鎖」といい、生きものが「食物連鎖」によってつながっているしくみを「生態系」といいます。

生態系のなかでは、植物を虫が食べ、その植物や虫を鳥などの動物が食べ、さらに鳥やけものを食べるキツネやタカなどの動物がいます。また、落ち葉や動物のふん・死体は、微生物によって分解されて土や水などにもどります。



食物連鎖でつながっている生態系

5 生物多様性が失われるとどうなるの？

生物多様性が失われると、「生物多様性の恵み」である食料や医薬品が失われたり、土砂くずれや洪水などの自然災害が起きるなど、私たちの暮らしにも大きな影響が出てしまいます。

食料や衣服、燃料などがなくなる

私たちの生活に必要な食料や衣服、燃料などは、ほとんどが生物多様性の恵みです。これらがなくなってしまうと人間は生きていけなくなります。



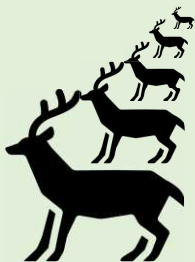
植物の花や実が育たなくなる

昆虫や鳥などに花粉や種子などを運んでもらっている植物は、これらの動物がいなくなってしまうと、花や実が育たなくなってしまう。



生態系のバランスが崩れる

ある生きものが絶滅することで、生態系のバランスが崩れることがあります。シカの数が増えすぎたのも、天敵だったオオカミの絶滅が大きな原因です。



自然災害が多発する

降った雨は森林や田んぼに一時的に蓄えられ、土砂崩れや洪水を防いでいます。森林や田んぼがなくなると、自然災害は今よりも多発することが心配されます。



地球温暖化がさらに進む

樹木や海草などは、人間が自然界に排出した二酸化炭素を吸収しています。これらの樹木や海草が失われると、地球温暖化がさらに進んでしまうおそれがあります。



医薬品の開発ができなくなる

生物由来の原料を使用している医薬品が数多く存在します。医薬品の原料となる生物が絶滅してしまうと、人類にとっては大きな損失となります。



技術開発のヒントがなくなる

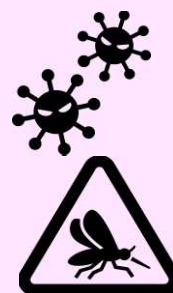
生物の持つ形や機能からヒントを得て商品を開発することがあります。生物多様性が失われると、このような技術開発ができなくなってしまう。



新幹線の車両は、カワセミのくちばしがヒントになって設計されました。

感染症が拡大する

森林減少、野生生物の生息地への人間の居住、都市化などが、感染症の拡大する原因になっているという報告があります。



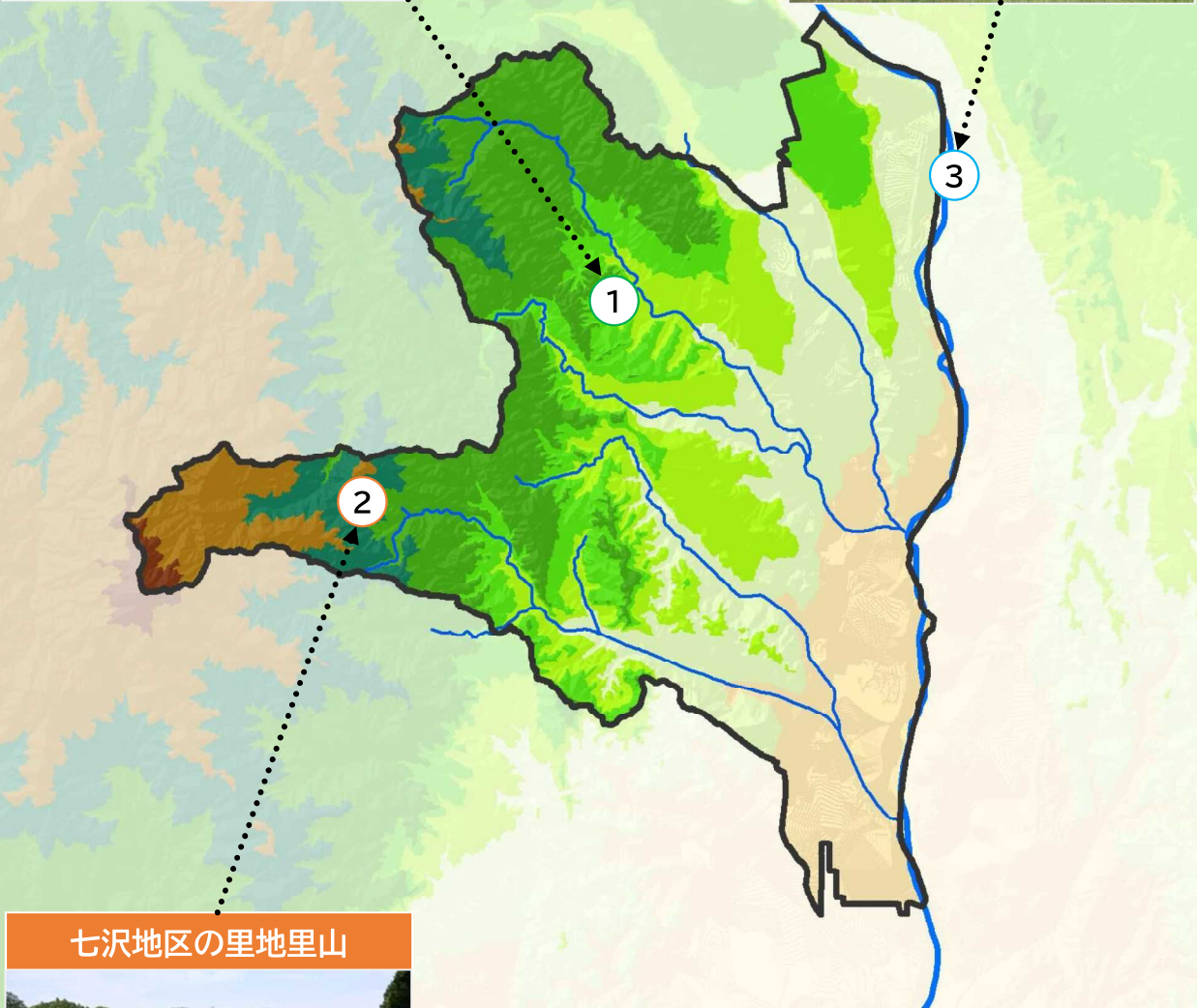
8 あつぎの生物多様性を感じてみよう

自然とふれあうことを通じて、厚木市の生物多様性について感じ、生物多様性の恵みや生物多様性について学べる場所を紹介します。

あつぎこどもの森公園



相模川流域の河川



七沢地区の里地里山



① あつぎこどもの森公園

あつぎこどもの森公園の里山には、ワクワクがいっぱいあふれています!日本一長い空中回廊では、地上約10mの高さを歩きながら、鳥やリスになった気分を味わうことができます。



ムラサキシジミ



ジャコウアゲハ



オカトラノオ



モノサシトンボ



キアゲハの幼虫



ヤマガラ



トゲアリ



ホトケドジョウ





第3章

戦略の目標

第1節 2050年の目指すべき将来像と2030年目標

本戦略では、「生物多様性国家戦略2023-2030」（2023（令和5）年3月閣議決定）の2050年ビジョン「自然と共生する社会」、2030年に向けた目標「ネイチャーポジティブ（自然再興）の実現」を踏まえて、2050年の目指すべき将来像、2030年目標を掲げます。

2050年の目指すべき将来像

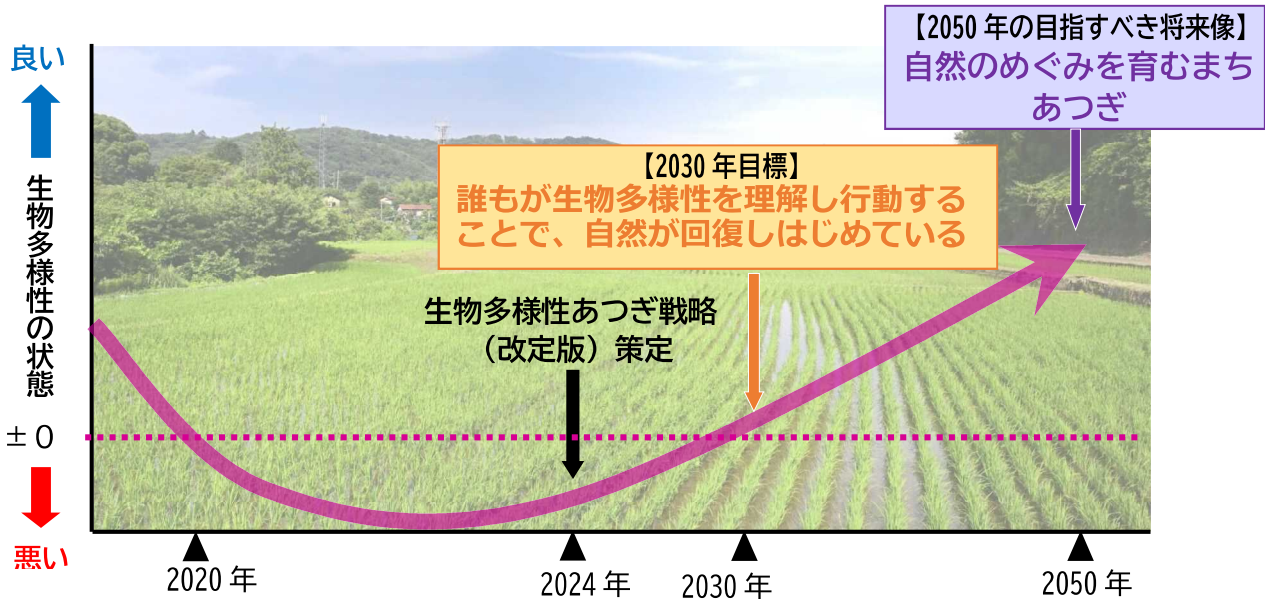
本市には、市街地だけでなく荻野、飯山等の里地里山、七沢等の山地、相模川や中津川等の河川など、多様で豊かな自然環境とそこに生息・生育する生物がいます。この生物の恵みによって、私たちの生活は豊かなものとなっています。この自然の恩恵を後世に残し、今の自然環境を豊かにしていきます。

自然のめぐみを育むまち あつぎ

2030年目標

本戦略の推進により、生物多様性の損失の直接的な原因への対策に加え、生物多様性に配慮した社会へ変革していくことで、ネイチャーポジティブ（自然再興）を実現していきます。

誰もが生物多様性を理解し行動することで、 自然が回復しはじめている





第4章

行動計画

2050年の目指すべき環境像

自然のめぐみを育むまち あつぎ

2030年目標

誰もが生物多様性を理解し行動することで、
自然が回復しはじめている

